

2025年1月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 1月えんだより

1月の聖句「受けるよりは与える方が幸いである。」

使徒言行録 20章35節

あけましておめでとうございます。昨年の夏は全国各地で、また、世界中のいたるところで災害級の暑さに見舞われました。その暑さがなかなか収まらない時期が長いと思っていると、いつの間にか各地で厳しい寒さに襲われました。この国の自然のすばらしさの一つである「四季」がどんどんなくなくなってしまっているように感じます。そして、このような環境の変化が地球規模で起こっています。子どもたちが神さまからの恵みを感じつつ明るい未来を迎えることができるように、大人である私たちがなすべきことを今一度考え、実践していくことができる一年になればと願っています。

いつの頃からか、「終活」という言葉を耳にする機会が多くなりました。その根底には、我が子や親類、周りの人々に迷惑を掛けたくないとの思いがあるのでしょう。裏を返すと、「迷惑を掛けられたくない」という思いがあるのではないかと感じます。昔は、人から「迷惑」を掛けられても「お互い様」と受け取っていたものが、時代や社会の変化と共にそのように感じるができなくなっているのではないかと思います。

『人という字は支え合っているように見えます。一人では生きられないのが人間です。自分が支えられていることに気づいたら、いつか自分も誰かの支えになりましょう。』これは瀬戸内寂聴さんの言葉です。

「人」は支え合って生きること。「人」として生きやすくなるように思います。そして、支えあって生きることが私たち人間の本来の姿であったのではないかと。神様が私たちを大きな愛で包み、支えてくださっているようにお互いに精一杯人を支え、遠慮なく人から支えてもらう。すべての人々がこのように支え、支えられることができた時に本当の平和が訪れるように思います。

こども園では、クリスマス会に向けての準備や当日、そしてクリスマス会後のこどもたちから、家族やお友だち、先生、そして神さまから支えられる体験と共に周りを支えようとする姿を多く見られました。支えられる存在から支える、愛される存在から愛する存在へと成長している証だと思っています。新しい年もこどもたちと共に、与えられる（受ける）喜びから与える喜びへの歩みを続けていければと願っています。

1月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	いっしょにね	じっくりと/かさねる
月の願い	- 自分が大切にされていると感じ、神様に愛され守られていることに気付く。 - 自分でやってみようとするが増える。	- 今まで楽しんできたことに、新たな経験を重ね、遊びや経験を広げる。 - 冬の不思議やおもしろさに気づき、友だちと調べたり試したりする。
讃美歌	「きょうも みんなに」 こども改105	「やさしいめが」 こども改114